第 94 回　高知のいごっそう

ＩＴ生

高知に技研製作所という杭打機のメーカーがある。杭打機の発明家にして創業者は、地元出身の人で現在は会長職にある。この杭打機は無振動、無騒音という画期的な技術で、世界に類のないものだ。杭打機の発明にあたり、同社会長は「圧入原理」を見出し、独自の機械設計法を編み出した。

このメーカーの面白いところは、機械の発明のみならず、それによる工法を打ち立て、かつて「台風銀座」といわれていた高知ならではの風土性を生かし、杭打機により鋼矢板、鋼管杭を連ねた「連続壁」による「壊れない堤防」を開発した。

技研製作所が一般公開し始めた同社開発の杭打機による〝壊れない堤防〟の工法

この技研製作所が５月１０日、高知空港に近い、創業家の土地に、圧入原理による工法を紹介したり、新工法の開発を目指す情報発信基地をオープンし、一般公開し始めた。

そのオープニング式典での会長のあいさつが圧巻だった。
来賓者へのあいさつもそこそこに、「業界の前例主義を打ち破る半世紀だった。（基地のオープンの目的は）目にものを見せたいからだ」と意気込んだ。高知の「いごっそう」（頑固者、進歩主義者）の真骨頂を示した。

前例主義とは、土を盛ってコンクリートをかぶせる従来工法の堤防のことだ。現在、同社の「壊れない堤防」は、津波地震対策として東北の復旧や高知県沿岸部を中心に施工されているが、国交省が所管する河川堤防への適用事例はごく一部に留まる。その理由は、近年の豪雨災害に限っても、水害を止めることのできない「土堤原則」という土木業界の前例主義にとらわれているからだ、と会長は〝糾弾〟する。

日本がこの原則から脱しきれないうちに、海外の各国は水害対策先進国オランダをはじめ河川堤防に、同社の工法を取り入れ始めている。
高知といえば寺田寅彦師の出身地である。寺田師の日本人の災害対策に終生警鐘を鳴らし続けた執念は、技研製作所会長の「いごっそう」にも引き継がれていると感じざるを得ない。

（令和５年５月）